様式第9号（第11条関係）

令和7年5月8日

太田市議会議長 高田 靖 様

太田市議会政治倫理審査会
委員長 矢部 伸 幸

審査結果報告書

令和7年4月3日付けで審査の付託を受けた件について、太田市議会議員政治倫理条例第13条第1項の規定により、次のとおり審査の結果を報告します。

1 審査請求の対象議員の氏名

岩瀬 僚 議員

2 審査請求の対象となる事由の該当条項及び内容

（太田市議会議員政治倫理条例第3条第1号及び第2号）

令和6年10月29日、会の議員が使用する会派室で、審査請求対象者は同僚議員である若林卓実議員に暴力行為に及んだ。当該行為は、太田市議会議員政治倫理条例第3条第1号及び第2号の政治倫理基準に反するものである。

3 審査の結果

別紙のとおり

審査の結果

1 審査の結論

(1) 認定した事実

岩瀬議員からの意見聴取等の結果、次の点について事実確認した。

- ・令和6年10月29日、午後1時30分頃、会派室において若林議員に対し暴力行為を働いたこと。

(2) 政治倫理基準の違反行為の存否

審査請求の対象となった岩瀬議員の行為については、太田市議会議員政治倫理条例（以下「条例」という。）第3条第1号及び第2号の一部規定に抵触する行為であると全会一致で認定した。

(3) 講ずることを求める措置の内容

本審査会が講ずることを求める措置として、議長は、対象議員に対し口頭注意を行うよう求める。

2 審査の経過

審査会は、審査に付された今回の事件が、条例第3条第1号の「法令を遵守すること」及び同条第2号の「市民の代表として名誉や品位を損なうような一切の行為を慎み、その職務に関して不正の疑惑を持たれるおそれのある行為をしないこと」という政治倫理基準に違反する行為であるか否かについて、公平かつ慎重に審査を行った。

審査の経過及び内容は、次のとおりである。

【第1回審査会】（令和7年4月16日（水）／委員全員出席／公開）

(1) 審査請求内容について

当該請求書の内容について、事務局から説明があった。

(2) 審査の進め方について

- ①審査の進め方について、初めに、審査対象議員である岩瀬議員から事実確認を行った後、聴き取りした結果を踏まえ、必要に応じて関係者として被害者である若林議員から事実確認を行うこととした。
- ②会議の公開・非公開について、条例に則り全て公開とすべきとの意見もあったが、公開とすることで十分な聴き取りが行えず審査に支障をきたす可能性が

排除できないとして、条例第10条ただし書きの規定により、岩瀬議員及び若林議員から聴き取りを行う際のみ非公開とすることとした。

【第2回審査会】（令和7年4月25日（金）／委員全員出席／部分公開※（1）（2）（3）非公開）

（1）岩瀬議員からの説明について

冒頭、岩瀬議員より本審査会が設置されたことに関して謝罪があり、その後、当該行為に至った経緯や相手方議員へ謝罪するまでの経緯等についての説明があった。

（2）岩瀬議員からの聴き取りについて

当該行為の事実確認を行うとともに、岩瀬議員が相手方議員に対して行った行為の詳細や行為に至った要因、相手方議員に対する謝罪までの経緯等について聴き取りを行った。

○聴き取り（質疑と答弁）の要旨

問 胸ぐらを掴んだ経緯として、日頃から配慮に欠いた言動があったということだが、それはどういったことか。

答 具体的な言葉というよりも、私の発言を否定するような言動を受けたことがあった。普段は聞き流していた。

問 当日も2件ほどあったとの説明であったが、その時も同じような言動だったか。

答 その通りである。

問 口頭で注意するなど、話し合いで解決できなかったのか。

答 話し合いにおいて解決すべきだったと今は考えているが、当日は肉体的、精神的な疲労もあり、非常に感情的になりやすい状態だったため、感情が抑えられず、こうした行為に及んでしまった。本当に申し訳なく思っている。

問 当日あったという2件の言動について、もう少し具体的に説明してほしい。

答 2件はネオタと私の政党の活動に関してのものであるが、6か月前のことであり、具体的な言葉は思い出せない。

問 なぜ当日、肉体的・精神的に疲弊した状態であったのか。

答 10月27日に衆議院議員選挙があり、選挙の支援活動等で肉体的に疲弊していた。その後、選挙結果を受け、精神的な面でも疲弊していた。

問 相手方への謝罪が遅くなってしまった要因は。

答 当日に謝罪をしたいという旨を伝え、その後、議会事務局に対して謝罪の場を設定して欲しいということも伝えていたが調整できず遅れてしまった。

問 謝罪の申し込みは、その1度だけだったか。

答 1度だけではなく、謝罪の意向があり、協議の場を持ちたいことは継続して事

務局に伝えていた。

問 謝罪の申し込みは事務局を通してのみか。自分から連絡をして謝罪を申し込んだことはないか。

答 ない。

問 自身の中で今後どうしていきたいか。また、今後どのように対策、改善をしていきたいか。

答 今後このようなことがないように、アンガーマネジメントの6秒ルールを意識し、またそういう気持ちになったとしても抑えられるように、今回のことを反省して対応していきたい。

問 最後に岩瀬議員から本件について、意見等々何か申し述べることはあるか。

答 このような行為に及んでしまったことに関しては、本当に公人としての自覚に欠ける面があったと反省している。今後このようなことがないように、先ほどのアンガーマネジメントも含め、意識して行動していきたい。大変申し訳なかった。

(3) 若林議員からの聴き取りについて

岩瀬議員からの聴き取りで一部、意見の食い違う箇所や具体性に欠ける説明があったことから、関係者である若林議員からも聴き取りを実施した。

聴き取りの冒頭で若林議員より、岩瀬議員から謝罪があり、それを受け入れた。和解済みの事案であり、これ以上私から話はしないが、客観的事実をまとめた資料を作成したので配付したいとの申し出があり、これを許可した。

○聴き取り（質疑と答弁）の要旨

問 新聞報道では、謝罪がないため被害届を提出したとあるが、議会事務局を經由するなどして謝罪の申し入れはなかったのか。

答 示談、謝罪の申し込みは一切受けていないと認識している。

問 議会事務局から日程調整の電話は受けているか。

答 事件が起きたその日にはあったが、その場で謝罪の連絡とは言われていない。話し合いの場を設けたいという話はあったが、私は事件後で恐怖を感じていたため出席できない旨を伝えた。

問 相当な期間、調整が行えなかった理由は。

答 様々な予定があり、その場ですぐに電話を取れないこともあったが、折り返しの連絡はしている。頻繁に日程調整の連絡が来ていたわけではない。その後、当時の議会事務局長に会い、ヒアリングも行っている。

問 警察による実況見分が行われた12月の若林議員に対する議会事務局などの対応はどうだったか。

答 記憶が不明確なためお答えすることができない。

問 事件発生の経緯や当日あった2件のやり取りについて具体的に説明いただきたい。

答 記憶が不明確なためお答えすることができない。

問 説明のために自身で用意した資料を見ても、事の発端について記憶が不明確なままか。

答 冒頭で申し上げたが、すでに和解済みの事案であり、これ以上私から傷害事件について話ができない。また、記憶が不明確であるためお答えすることができない。

(4) 事実認定について

岩瀬議員及び若林議員からの聴き取りを踏まえ、当該行為について事実であったと認定した。

(5) 政治倫理基準に違反する行為の存否について

当該行為について、条例第3条第1号及び第2号の一部が政治倫理基準に反するものであると全会一致で認めた。

(6) 講ずることを求める措置について

委員全員の賛成により「口頭注意」と決定した。

【第3回審査会】(令和7年5月8日(木) / 委員全員出席 / 公開)

(1) 審査結果報告書について

審査結果報告書委員長案について協議し、決定した。

(2) 議長への報告

条例第13条第1項に基づく議長への報告を5月8日に実施することを決定した。

3 審査の結果に至る委員の主な意見

①政治倫理条例第3条第1号について、「胸ぐらを掴んだ」ということに関しては、明らかな暴力であり、法令違反であると考え。しかし、その行為に至った経緯が不明確であり、判断が難しい面もある。

②同条第2号に関して、「品位を損なう」には該当すると考える。しかし、その後の「不正の疑惑を持たれる」に関しては、両者の答弁を聞いてる限りでは、判断しかねる。前者の「品位を損なう」ところについては、処分、処罰が必要ではないか。

- ③審査対象者はすでに1度、議長から口頭注意を受けている。聴き取りでも本人は事実を認めており、反省もしている。その他の部分に関しての事実関係は不明確な部分もあるが、措置としては改めて審査会のルールに沿った議長からの口頭注意でいいのではないか。
- ④審査対象者は聴き取りも真摯な態度で答えていた。明瞭に答えられない部分もあったが、きちんとした受け答えができていたことから、口頭注意でいいのではないか。
- ⑤政治倫理審査会で決定される口頭注意は、太田市議会の記録として今後も残るものである。口頭注意といえど、従来議長による口頭注意と異なり、厳しい判断であるとする。今回は口頭注意にて反省を促し、市民の負託に応えられる議員として再び頑張ってもらいたいのではないか。

4 審査会の構成

(委員長) 矢部伸幸議員 (副委員長) 星野一広議員

(委員) 神谷大輔議員、八長孝之議員、長正祐議員、
山田隆史議員、白石さと子議員、久保田俊議員

以上